

熊本城 復興に向けて

〈3〉鎮台の設置と明治天皇巡幸

熊本城の廃止が決定し、天守から城内・城下を庶民が眺めるとい
うイベント「御城拝見」が真最中だった明治3(1870)年11月、維新
政府直轄軍編成のための「徴兵規則」が公布されます。翌4(1871)
年7月には廃藩置県となり、熊本県が誕生。8月には全国に鎮台(陸
軍)の設置が決まり、九州を統括する鎮西鎮台の本営(司令部)が熊
本に置かれることになり、花畑の旧藩邸があらわれます。11月23日
には「全国城郭毀廃ノ所置方々各鎮台ニ心得シム」という政令が出
されて城郭の所管は兵部省(のち陸軍省)となり、その改変や処分が
各鎮台に委ねられることになりました。これにより熊本城と旧藩邸
も明治5(1872)年1月から正式に鎮台用地となりました。

ところが、多くの鎮台では施設の近代化を図るため、石垣や堀・濠
で囲まれ、曲がりくねった通路の城跡を利用しやすいように改変し、
また老朽化した櫓を撤去するなどの行為が頻発し文化財的危機が
到来します。これを心配した文部省官僚の町田久成たちは、同年6月
7日に「古城保存」を意見し、6月14日に城郭の改変は太政官に伺う
事項とする太政官通達に成功します。ともかく、鎮台が勝手に城郭を
改変してしまうことはなくなりました。明治6(1873)年の「廃城令」
では、陸軍所轄の財産として熊本城は「存城」となりますが、特に老
朽化していく櫓や塀などの建物の維持は悩みの種だったようです。

鎮西鎮台初期の明治5年、熊本城にとって大きな出来事がありま
した。明治天皇の熊本城行幸※1です。江戸時代、天皇が皇居を遠く離
れることはありませんでしたが、天皇親政※2となり、その周知のため
鹿児島を最終目的地とする最初の地方巡幸※3でした。5月23日に東
京を出発、三重・大阪・京都・兵庫・山口・長崎を経由し熊本には6月
18日～20日(新暦の7月24日～26日)の三日間滞在されていま
す。「巡幸日誌」によると6月19日の朝5時、現在の第一高等学校敷
地にあった熊本医学校や洋学校に臨席し、教師のマンズフェルトや



▲内田九一撮影の熊本城北側から天守を望む写真
(公益財団法人 文化財建造物保存技術協会 提供)



監物櫓下にある「陸軍所轄地」
と刻まれている標柱

ジェーンズが拝謁※4しています。7時過ぎには鎮西鎮台に到着し兵隊
整列を天覧※5され本営で休息。その後、熊本城中を巡覧されて天守
上階にて休息され、8時には水前寺に向かわれています。この時の巡
幸先の記録写真があります。撮影者は明治天皇の肖像写真を最初に
撮影し、巡幸に同行していた東京の写真師内田九一でした。彼は「天
皇のまなざし」を代行する形で熊本城の風景写真を多く残しています。

ところで、この巡幸の随行責任者は参議の西郷隆盛で、熊本城行
幸を受け容れた鎮台司令官は桐野利秋でした。この二人、翌6年
には公職を離れ鹿児島に帰郷します。そして奇しくも4年後の西南戦
争では熊本城の鎮台兵を相手に熾烈な攻城戦を展開することにな
ります。

- ※1 行幸 …… 天皇が特定の場所に外出すること。
- ※2 天皇親政 …… 天皇自身が政治を行うこと。
- ※3 巡幸 …… 天皇が各地を見回って歩くこと。
- ※4 拝謁 …… 君主など高貴の人にお目にかかること。
- ※5 天覧 …… 天皇がご覧になること。